

アストロガンガー

1972年



『アストロガンガー』は、1972年（昭和47年）10月4日から1973年（昭和48年）3月28日まで日本テレビ系で毎週水曜日19時00分 - 19時30分に全26話が放送された、ナック・宣弘社製作のロボットアニメ

概要

『マジンガーZ』より2か月早く放映が開始された作品で、人が巨大ロボットに入り込んで敵と戦うSFアニメーション番組の先駆けである。

しかし、『マジンガーZ』以降に類出したいわゆる巨大ロボットアニメーション作品のように

主人公が搭乗し操縦するという形ではなく、意思を持つロボット・ガンガーに

主人公・星カンタローが融合することで、その能力が最大限に引き出されるという設定である。

意思を持った巨大ロボット、主人公と肉体的に融合する巨大ロボットは、それぞれ他に例があるが、双方の設定を兼ね備えた作品は本作のみである。

そのため、巨大ロボットアニメの系譜では、類似作品や継承作品がほとんどない独自の位置の作品であり、巨大ロボットアニメ作品の先駆けとして

語られる機会は少ない。しかし、使用されたSE音に関してはロボットの歩行や着地の際の金属音、ポーズをとった時のメカの咆哮音、

ビーム放射の際の音など、『マジンガーZ』をはじめその後のアニメ作品でも定番となる音響をいち早く採用している。

また、ガンガーは人語を話し格闘戦を主にして戦うため、ロボットというよりも巨大ヒーロー色が強い。

ただし、この作品は、企画段階では「少年がヘリコプターのような乗り物で巨大ロボットに合体して操縦する」という

設定になっていた。ところが具体的な作業に入る段階になってクレームがつき、「メカニックな取り扱いは駄目、

ロボットは生きた金属でできた生き物にしる、合体もメカ的に行うのではなく少年が宙を飛んで行って溶け込むようにしる」と

いう、いわゆる当時流行りの変身ものとなり、いろいろと考案したメカニズムが全て破棄されたという経緯がある。

本作の中心的な製作スタッフの西野聖市、田中英二、安藤豊弘、茂垣弘道らは2年後に放映される『チャージマン研!』にも

携わっているほか、作風や登場人物の構成（敵対する宇宙人も含め）についても類似性が見られる。

2017年4月に、5PRO STUDIOから本作初となる可動フィギュアが発売された。

あらすじ

生物の住む惑星の酸素と緑を狙い、環境を破壊するブラスター星人の攻撃で、宇宙では平和な惑星が次々と滅亡していた。

ブラスター星人に滅ぼされたカンタロス星の女性科学者マヤは、“生きている金属”を持って地球へと脱出した。

マヤは地球人の星博士と出会い、二人の間に息子・カンタローが誕生する。ブラスター星人が地球を狙うことを予見していたマヤは、

“生きている金属”を海底火山のエネルギーで成長させ、巨大ロボットのガンガーを誕生させた。しかし、脱出の際に浴びた

ブラスター星人の光線による後遺症が原因で、マヤは星博士にカンタローの将来とガンガーを託して息を引き取る。

カンタロス星壊滅から10年後、ブラスター星人は地球を次の標的に定め行動を開始したが、怪事件の黒幕が

ブラスター星人であることを訴える星博士の主張は、世間に受け入れられなかった。

カンタローはガンガーと一体化して、地球を守るための戦いを開始する。

ガンガー

声 - 飯塚昭三

ブラスター星人の地球侵略に対抗するため、星カンタローの母・マヤがカンタロス星の「生きている金属」を使って生成した巨大ロボット。全高40メートル、重量2トン。

自分の意思を持ち、単体での活動も可能。ただし、カンタローと合体していないと人間の知能が欠如するため真正面からのみの単調な攻撃になりやすいが、

合体することでその真の能力を発揮する。急激な低温と錆びに弱い[3]。また、カンタローが融合している胸の円盤状の部分を守ろうとして行動が鈍ることもあった。

円盤状の部分は普段カンタローがガンガーを呼び出す際に使うペンダントと同じデザインをしており、2人が分離中にこの部分を攻撃されると離れた場所にいるカンタローにも

衝撃が伝わる描写がある[4]。最終話では分離させたカンタローらに乗せて脱出艇代わりに使用された。

武器は装備されておらず、主に格闘で敵を倒す。空を飛ぶことも可能。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

アストロガンガー

<https://majingai.x.fc2.com>

1972年



【登場人物】

星カンロー 声 - 東美江 本作の主人公。地球人とカンタロス星人のハーフ。
星博士 声 - 吉沢久嘉 カンローの父親。通信機を通してガンガーにいるカンローに指示を出す。
ガンガー 声 - 飯塚昭三 ブラスター星人の地球侵略に対抗するため、星カンローの母・マヤがカンタロス星の「生きている金属」を使って生成した巨大ロボット。全高40メートル、重量2トン。

早川 りえ 声 - 小沢かおる 国際科学警察の次長。りえの父親。
早川次長 声 - 大宮悌二 カンローの母親。カンタロス星という遠い星に住む科学者だったが、ブラスター星人に故郷を襲撃され「生きている金属」を持ち出して地球へ逃げ込む。
マヤ 声 - 鈴木弘子 そこで星博士に介抱され結婚し、カンローを授かる。
いずれブラスターが地球を襲撃すると予見し、生きている金属からガンガーを作り出すがガンガーの誕生と同時期に、ブラスター襲撃の際に負った傷が悪化して亡くなってしまった。

ブラスター星人
ブラスター1 声 - 寺島幹夫
ブラスター2 声 - 鈴木泰明
ブラスター3 声 - 清川元夢
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【スタッフ】

原作: 鈴川鉄久
監修: 小林利雄
チーフプロデューサー: 松本美樹
企画: 西野清市
構成: 田村多津夫
作画監督・キャラクターデザイン: 田中英二 (タマプロダクション)
美術監督: 椋尾篁
制作担当: 茂垣弘道、小林隆吉、米沢孝雄 (日本テレビ)
協力: タマプロダクション
音楽: 小森昭宏
プロデューサー: 西條克麿、藤井賢祐 (日本テレビ)
編集: 西出栄子
音響監督: 山田悦司
効果: E&Mプランニングセンター
調整: 原田一男
選曲: hap
録音: 番町スタジオ
現像: 東洋現像所
制作: 宣弘社、ナック



2021.05.11

アストロガンガー 1972年

【ブラスター星人】

ブラスター星人とは、ナック・宣弘社制作のロボットアニメ「アストロガンガー」に登場する敵宇宙人である。本編にて全話に登場し、地球を狙った宇宙人。あらゆる資源・食物を大量に摂取しており、地球の酸素と緑を強奪するために来襲した。掛け声は「ブラスター！」。母星は別に存在し、壊滅はしていない様子だが、酸素と緑、その他資源が枯渇している状態らしい。そのため、宇宙各地に多くの大型円盤を派遣し、酸素と緑を集めている。地球に飛来したのも、その一派。大型円盤内には小型円盤を多く搭載、巨大ロボット工場など、様々な施設も存在する。外観はどれも同じだが、額と胸に数字が振られている。そのため、個人名は存在せず、「ブラスター〇〇」と、数字で呼ばれる。「〇〇」は「〇〇号」と呼ばれる事もあれば、ただ数字をそのまま呼称することもある（例：ブラスター2）。リーダーであるブラスター1は、時折「チーフ」と呼ばれる。また、数字の読み方が変わっている者も多い。
例：：ブラスター16=ワンシックス　：ブラスター33=ダブルスリー　：ブラスター34=スリーフォー　：ブラスター99=ダブルナイン　：ブラスター104=ワンゼロフォー
今までに数多くの惑星から酸素と緑を奪い取り、壊滅させてきた。カンタロス星もその一つ。地球人に対しては、「自分たちより格下の存在である」と完全に見下しており、「少なくとも我々は地球人より優れているはずだ、この地球上に我々の分からない物があるはずがない（21話 ブラスター26号のセリフより）」とまで言いきっている。また、休戦を申し出たり、地球人と友好や協力関係を結ぼうなどと言出す者も、誰一人として出てこなかった。侵略される側としては迷惑な話でしかないが、酸素や緑をはじめとする資源の強奪は、彼らブラスター星人にとっては自らの種の死活問題であり急務である。しかしブラスター1、2はそれにかこつけて部下たちを蔑ろにする事はなく、無茶な作戦に志願した部下たちをたしなめたり、無事に帰還させるため注意したりする事も多かった。また、部下たちもほぼ全員が、ブラスターのために忠誠を誓っており、過酷な任務でもそれに殉じ、裏切りや私欲のために動く者は見られなかった。（もっとも、命令に従わず好き勝手に放浪し、チーフの座を狙っていたならず者「ブラスター9」も劇中には登場しているが）また、ブラックフェアリーやバットスノーなど、ブラスター星人以外の傭兵や協力者も多く、自分たちにとって酸素と緑が取れない星ならば、友好関係を結んでいる事がうかがえる。

【ブラスター1(CV:寺島幹夫)】

ブラスターの司令官。通称『チーフ』地球侵攻部隊のリーダーとして指揮を執る。地球から酸素と緑を強奪するために、毎回様々な作戦を立案し実行している。

【ブラスター2(CV:鈴木泰明)】

ブラスター1の参謀で副司令官。科学者らしく、科学アドバイザー的な発言をして、ブラスター1とその作戦をサポートする。ブラスターマシンの操作のみならず、対ガンガー用巨大ロボットの製作、様々な科学分析の他、宇宙の各地に生息している宇宙怪獣を捕え、ブラスターの戦力として投入する事も多い。

【ブラスター3(CV:清川元夢)】

ブラスターの参謀。
出典：pixiv百科事典

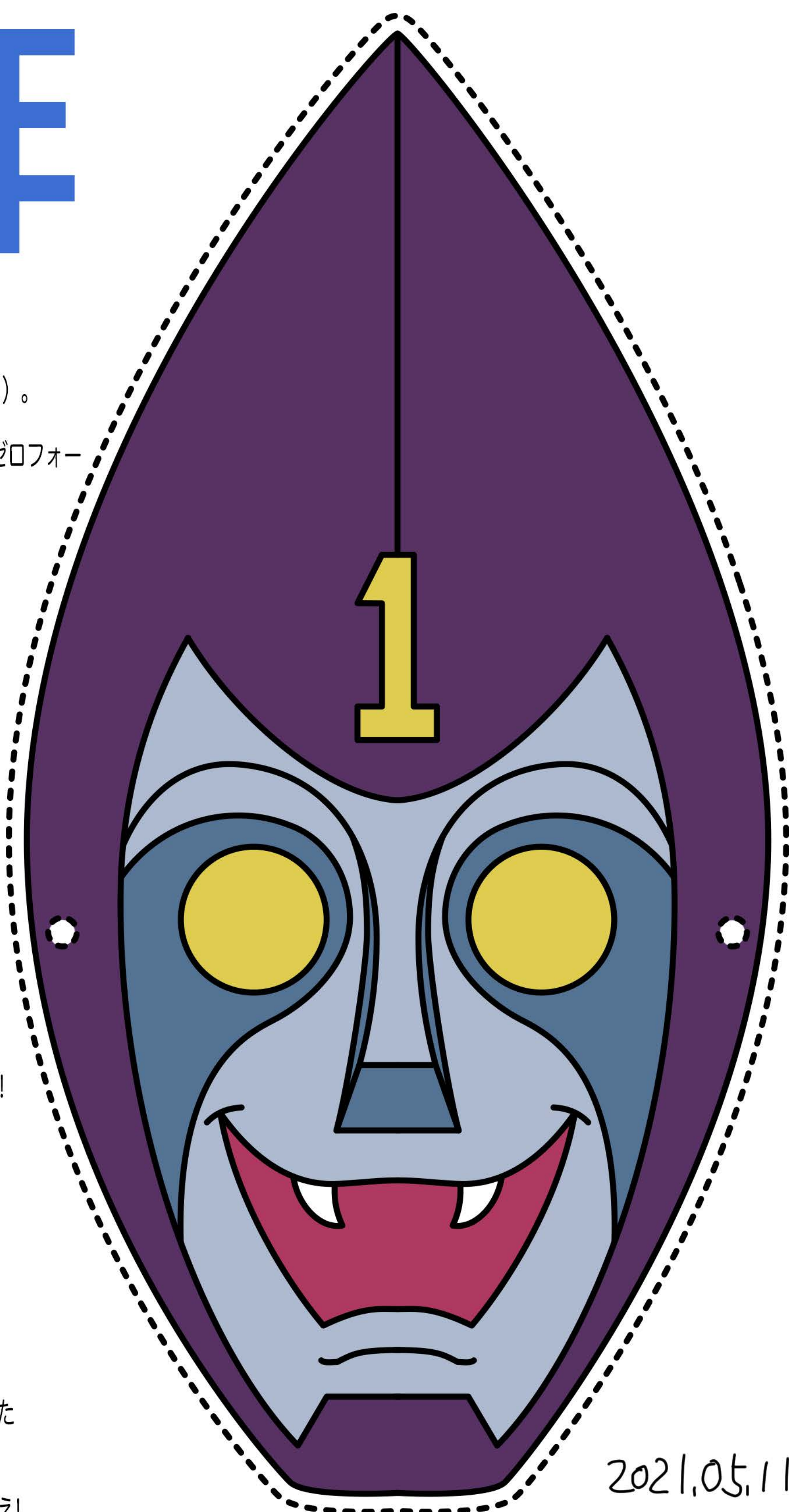
【海外での展開】

日本文化開放前の韓国では、1978年8月26日から10月14日まで、毎週日曜午後5時から、日本テレビが提携していた東洋放送テレビジョンで『짱가의 우주전쟁』（チャンガの宇宙戦争）の題名で放送された。少ない話数ながら大ヒットを起し、後番組に、日本の『グレートマジンガー』が放送されたときに、原作とは何ら関係はないもののキャラクターの名前を同名にし、続編作であることを示唆させるほどであった。これは、当時文化放送で放送されていた本来の前作である『マジンガーZ』との差別化を強調させるためである。日本での存在感は薄いものの、韓国ではロボット『テコンV』や『マジンガーZ』同様、非常に知名度の高い作品である。その人気の高さから、『マジンガーZ』などと同様、後年にもたびたび再放送された。韓国ドラマ『メリー&テグ恋のから騒ぎ』、『星を射る』、『シングルパパは熱愛中』などの劇中で現地語バージョンの主題歌が歌われるほか、少女時代が新韓銀行クレジットカードのCMにおいて替え歌でカバーしている。ただ、このアニメは『黄金バット』や『妖怪人間ベム』と異なり、純粋な日本製で、東洋放送は現地語に吹き替えて放送のみを行った（この作品以外にも、前述したように『グレートマジンガー』、『UFOロボ グレンダイザー』、『合身戦隊メカンダーロボ』なども放送された）。
出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>

【サブタイトル】

- 行くぞ ガンガー
- 生きているロボット
- 燃える島の陰謀
- 恐怖の虹
- ガンガーの秘密を探れ
- 錆ついたガンガー
- 宇宙爆撃隊
- 宇宙の猟犬 - ハウンド -
- 怪しいおばあちゃん
- 強いぞ!ガンガー
- 地球はぼくらのものだ!
- 流れ星の降る谷
- 白い眩谷の決闘!!
- 白夜の対決
- オーロラの秘密
- ブラスター宣戦布告
- 戦慄のスパイモンスター
- チェイン・メールの渦
- 時限爆弾ロボット・
- レンズマー分身作戦
- ロボット部隊がやって来た
- 宇宙の幽霊船
- カンタロスの決斗
- あの胸のペンダントを狙え!
- ブラスター・デビル - 悪魔の眼 -
- スペース・パンサー



2021.05.11

ブラスター1(わん) お面